

平成21年度



オンリーワン スクール 推進事業

研究開発校 報告書

- スクール・カルチャー「能楽」の取組
- 加茂湖再生プログラム事業への参加



新潟県立佐渡中等教育学校

あいさつ

県立佐渡中等教育学校

校長 中村 健郎

本校は、地域の皆様の厚い期待のもと、平成20年4月に開校し2年目を迎えています。本県では、村上・柏崎・燕・津南・直江津に次いで六番目の県立中等教育学校となります。また、全国では、十八番目の公立の中等教育学校であり、離島としては初の中等教育学校となります。

本校は、「C a t c h t h e W A V E S !」(夢を叶える波をつかめ!)を校是とし、六年間の一貫した計画的・継続的な教育から生まれるゆとりある学校生活の中で、より一層個性の伸張を図り、幅広い人間形成をめざしています。学校の教育目標には、「佐渡の歴史と文化に誇りをもち、豊かな人間性と知性を身に付け、世界的視野で活躍できる人材の育成」を掲げています。また、生徒一人一人が自己の大志を実現するために、確かな学力や豊かな人間性、郷土を愛し地域に貢献する資質や態度を身に付けさせることを方針としています。

特に、郷土を愛し地域に貢献する態度や資質の育成については、地域の人材等を活用し、歴史や文化等の理解を深める体験活動として、総合的な学習の時間の中に、「佐渡学」(佐渡の歴史研究、伝統芸能・伝統工芸体験、自然観察等)とスクール・カルチャー「能楽」を設定し、全校生徒で学習してきました。

このような特色ある学校づくりを進める本校は、県の施策である「オンラインスクール推進事業」の研究開発校に指定され、佐渡の伝統芸能「能楽」や佐渡の環境を学び、郷土愛を育むための特別活動等の研究開発に取り組んできました。ここに、今年度の取組を報告いたします。

終わりに、この事業を推進するにあたり、ご尽力頂いた、能楽の指導者である神主弐二先生、日本画家の渡辺富栄先生、「トキと社会」研究チームの皆様方に深く感謝申し上げます、あいさつといたします。

郷土愛

郷土を愛し 地域に貢献する態度の育成

目次

1	あいさつ	校長 中村 健郎
3	フォトグラビア	
	Ⅰ 本間家定例能	
4	Ⅱ 鏡板制作	
7	Ⅲ 学習発表会	
8	Ⅳ 加茂湖エコウォーク	
9	オンリーワンスクール推進事業とは	
	Ⅰ オンリーワンスクール研究開発校	
	Ⅱ 当校のオンリーワンスクール推進事業設定の背景	
	Ⅲ 研究内容	
	Ⅳ スクール・カルチャー「能楽」	
10	Ⅴ 加茂湖水系再生プログラム事業	
	Ⅵ 期待する成果	
11	オンリーワンスクール推進事業の活動概要	
	Ⅰ コンセプト	
	Ⅱ 取組状況	
16	Ⅲ 主な成果	
25	Ⅳ 今後の課題	
26	他校への伝播	
	Ⅰ 取組状況	
27	Ⅱ 新聞記事	
30	編集後記	

Catch the WAVES!



本間家定例能

新潟県立佐渡中等教育学校出演 連吟「竹生島」



平成21年7月26日 本間家能舞台にて

鏡板制作

～ 世界に一つだけの鏡板が完成するまで ～



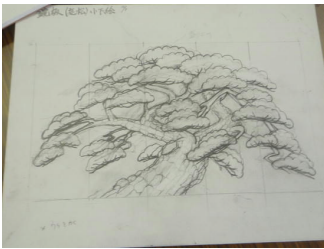
能楽室に仮設置



体育館でもはめてみる



① 下塗り



写生スケッチ



② 木炭であたりをつける



日本画家 渡辺富栄先生 から描いていただく



③ 水干絵具で淡彩を施す

* 「鏡板」とは、能舞台の正面にある老松が描かれた羽目板のこと。老松は神の象徴とみなされており、神前で舞うという意味がある。





④ 岩絵具を重ねる



写生を基にした小下絵



⑤ 色むらをチェックして、何度も重ねていく



⑥ 松の木の細部まで描く



立てて見て、
全体を確認



⑦ 松の葉を一本一本ていねいに描き加える

全体や細かいところを最終調整



⑧ 素晴らしい鏡板が完成（平成21年9月～11月）

裏面の署名

鏡板完成記念「学習発表会」能楽披露



鏡板の前で

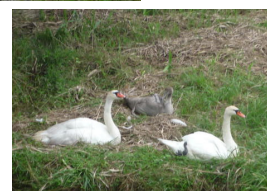
1 学年「連吟・羽衣」

2 学年「舞囃子・胡蝶」を上演

平成22年2月13日
(佐渡中等教育学校 大体育館)

加茂湖エコウォーク ～自然再生研究への参加～

1 加茂湖コース



2 天王川コース



平成21年8月1日 加茂湖周辺にて

オンリーワンスクール推進事業とは

I オンリーワンスクール研究開発校

児童生徒がより主体的に学校を選択することができるよう、全ての県立高等学校、県立中学校および県立中等教育学校が自校の魅力をより一層明確にしたオンリーワンの学校づくりを推進するにあたり、パイロット的な役割を担う学校を「オンリーワンスクール研究開発校」として指定し、取組内容や成果を他校に伝播できる特色ある取組を支援することで、本県の高等学校教育および中高一貫教育の活性化に資するのが、この事業の趣旨である。

今年度は、本校を含め12か校が研究開発校に指定された。

II 当校のオンリーワンスクール推進事業設定の背景

現在、佐渡島では、少子高齢化が進む一方で、若者層の島外への流出による人口の減少が大きな課題となっている。佐渡で生まれ育った生徒たちではあるが、郷土の伝統文化、歴史、自然に恵まれた環境にある佐渡の魅力を知らないまま島外に出てしまうことも多い。

佐渡島で唯一の中高一貫教育校である本校では、6年間のゆとりの中で、確かな学力の定着はもちろん、佐渡の魅力に気付かせるとともに、佐渡の抱えている課題についても考えさせ、郷土を愛し地域に貢献する態度の育成を目指している。

そのため、総合的な学習の時間で「佐渡学（佐渡の自然、歴史、文化を学ぶ学習や体験活動）」を充実させている。中でも、スクール・カルチャー「能楽」の取組や「トキと社会」研究チームの加茂湖水系再生プログラム事業への参加は本校の特色である。

III 研究内容

特色ある教育課程の開発や特色ある教育活動の研究に取り組み、その取組状況や成果等を他の学校や地域に広く伝播する。なお、指定終了後も継続した取組が行えるような研究を行う。

本校では、特色ある教育活動の研究として、次の2点に取り組む。

- 1 スクール・カルチャー「能楽」の取組
- 2 佐渡の環境を考える「トキと社会」研究チームの加茂湖水系再生プログラム事業への参加

IV スクール・カルチャー「能楽」

1 主な活動

- (1) 総合的な学習の時間に、全校生徒で能楽を学ぶ。謡の練習を通して、伝統芸能「能楽」に親しみ、声の出し方や礼法なども併せて学ぶ。
- (2) 佐渡で行われている本物の「能楽」を見学、鑑賞する。
- (3) 学習発表会等で「能楽」の謡を披露する。

2 スクール・カルチャー「能楽」のねらい

- (1) 佐渡の伝統芸能である「能楽」を全校生徒で学び、佐渡の文化について知るとともに、礼儀を身に付ける。
- (2) 能楽の謡をマスターし、能楽の発表会等を行い、本校の取組をアピールするとともに、佐渡への愛着を醸成する。

V 加茂湖水系再生プログラム事業

1 加茂湖水系再生プログラムとは

- (1) 「トキの島再生研究プロジェクト」の中の「トキと社会」研究チームは、地域と行政、大学がチームを組み、トキ野生復帰と佐渡島の恵みをつなぐ包括的な再生の研究と実践を行っている。
- (2) 「トキと社会」研究チームの研究とタイアップして、研究者と市民が協力し、行政・産業との連携のもとで、加茂湖水系の再生を目指す研究実践活動の拠点として「加茂湖水系再生研究所」が活動している。

2 プログラム参加のねらい

- (1) この事業に参加し、自然豊かな佐渡を愛する心を育成するとともに、佐渡の環境問題について考える力を付ける。
- (2) 大学や研究機関と連携して活動することを通して、専門的な学びや研究方法を身に付ける。

VI 期待する成果

- 1 故郷佐渡の魅力を実感した生徒たちが、将来、佐渡や新潟、日本を担う人材に成長し、地域を支える人材となることを期待している。佐渡の伝統芸能である「能楽」を学ぶことは、地域理解と地域貢献につながる。国内だけでなく、今後予定されているプナホー学園との交流や国際交流の場でも佐渡や日本の文化等を自信をもって発信する力を付けさせ、教育目標にある「世界的視野で活躍できる人材の育成」につなげていきたい。
- 2 大学や研究機関との共同体験実習などを通して、進路に対する目的意識の向上と学習への動機付けを図る。キャリアガイダンスとしての一面と研究の進め方やより専門的な学習の仕方を学ぶ機会になる。また、自然再生に向けた社会的なプロジェクトとして日本の最先端の研究に参加しながら、佐渡の環境を見つめ直し、佐渡への愛着と科学的な思考力を高めたい。

オンリーワンスクール推進事業の活動概要

I コンセプト

C a t c h t h e W A V E S ! (将来の夢をかなえる波をつかもう)

～知性・人間性・郷土愛を育みながら、大きな成長へ～

【解 説】

「C a t c h t h e W A V E S !」は本校の校是である。(夢を叶える波をつかめ!)
という意味。W A V E Sには、次のような意味を込めている。

W=W i s d o m (自ら高める「英知」)

A=A s p i r a t i o n (夢をえがく「大志」)

V=V i t a l i t y (たくましく生きる「活力」)

E=E m o t i o n (豊かな心を育む「感動」)

S=S t u d e n t s , S c h o o l , S a d o (生徒、学校、佐渡)

波がうねりになり、夢が広がることをイメージしている。

佐渡の恵まれた自然や文化の中で、本校の運営方針の3つのキーワード、「知性」「人間性」「郷土愛」を育みながら、世界的視野で活躍できる人材の育成を目指している。

その中でも、この事業では 特に、郷土愛を育むことに焦点をあてて、特色ある活動を進めている。

II 取組状況

1 スクール・カルチャー「能楽」の取組

(1) 6月18日～7月23日 謡の練習

- ・講師(*神主弐二氏)を招き、能楽を学んでいる
- ・1年生は初めの授業で、能楽入門として、能の歴史や佐渡との関わりについて学習する。
- ・1年生は学級ごと、2年生は学年まとまって、「謡本」を基に謡の練習をする。
- ・1年生は「羽衣」、2年生は「竹生島」を練習。
1年生は正座することから始まる。

*神主弐二 氏

宝生流師範・能楽協会会員

新潟県能楽連盟理事

佐渡能楽倶楽部会長



(2) 7月26日 本間家定例能への出演、鑑賞

- ・ 2年生全員が能舞台に上がり「連吟・竹生島」を披露。ほとんどの生徒が能舞台に上がるのは初体験でした。
- ・ 扇を持って入場し、地域の人々や観光客など参会の皆様の前で堂々と披露する。
- ・ 1年生は2年生出演の「竹生島」と、学習している「能・羽衣」を鑑賞する。

▶ 「フォトグラビア p 3」参照



(3) 9月～11月 能楽室の整備

ア 鏡板の制作

- ・ 能楽室と体育館のどちらでも使用できるように可動式の鏡板を制作。
- ・ 佐渡産の杉板を使用し、5枚と両脇の2枚、計7枚で構成し、枠は簡単に組み立て可能なものを制作。
- ・ 老松の絵は、日本画家（*渡辺富栄氏）に依頼し、約3か月をかけて描き上げた。
- ・ 佐渡中等教育学校の宝として、「鏡板」を大切にしていきたい。
- ・ 老松は新潟市役所前の樹齢800年の松がモデル

* 渡辺富栄 氏

日本美術院院友

新潟県展委員

新潟県美術家連盟理事

新潟市美術協会理事

▶ 制作過程の詳細は、「フォトグラビア p 4～6」を参照



イ 畳の追加

- ・ 能楽室に畳を増やし、学年全体で正座して練習できる環境を整える。

- (4) 10月8日 日韓中高生交流事業で「能楽」を披露
- ・参加した佐渡中等生14名が韓国のソウル市ヨンマ中学校訪問の際、「羽衣」の仕舞、謡を披露した。
 - ・日本の文化を伝えることができ、生徒たちは「能楽」を学んでいる意義を実感した。



- (5) 12月11日～2月12日 「能楽」の練習再開
- ・全校朝会で、全校生徒に完成した鏡板を紹介
 - ・「学習発表会」に向けて、2年生は新しい演目「胡蝶」の謡を、1年生は「羽衣」の練習を再開する。
 - ・1年生は鏡板の設置された能楽室で、2学級合わせて学年全体で練習。
 - ・2年生は武道場で、舞囃子の発表に向け、シテ役の生徒に合わせて謡の練習。



- (6) 2月12日 学習発表会「能楽」の申し合せ（リハーサル）
- ・初めて囃子方（笛・小鼓・大鼓・太鼓）と合わせての練習



- ・体育館に鏡板が運ばれ、完成お披露目の準備が整う。



- (7) 2月13日 学習発表会で「能楽」披露
- ・1年生は「連吟・羽衣」を披露
 - ・2年生は「舞囃子・胡蝶」を披露
 - ・鏡板制作者の渡辺先生からも参列いただき、制作への思いや感想を述べていただいた。
 - ・大体育館は静けさの中に、能の調べと仕舞、謡が響き渡った。
 - ・鏡板の前での各学年の能楽発表に、参観者から大きな拍手が送られた。
 - ・能楽の発表時は、150名近くの参観者が集まった。



▶「フォトグラビア p7」参照



2 佐渡の環境を考える「トキと社会」研究チームの加茂湖水系再生プログラム事業への参加

- (1) 7月8日 佐渡中等談義の実施
- ・「トキと社会」研究チームとその関係者、生徒が6グループに分れ、加茂湖やトキ、川をキーワードに知りたいことや、やってみたいことをワークショップ形式で談義(*)を行う。
 - ・各グループで話し合ったことは、全体会でも発表し意見交換をする。



*談義とは、「トキと社会」研究チームが、トキ、自然、地域のことについて、いろいろ異なった立場の人が参加し、ワークショップ形式で意見交換をしながら、考えを広げたり、高めたりする参加型の活動。

(2) 8月1日 加茂湖エコウォークの実施

- ・生徒、保護者、「トキと社会」研究チームとその関係者合わせて、170名を越える参加者
- ・「①加茂湖コース」と「②天王川コース」の2コースに分れ、加茂湖周辺のゴミ拾いをしながら、要所所で専門家の方から自然再生やトキのすみやすい環境について説明を受ける。
- ・「トキと社会」研究チームの東京工業大学大学院桑子教授からは“川の再生”について、環境省の笹渕自然保護官からは“トキ放鳥”について、加茂湖漁協の方からは“加茂湖の水質、カキ殻の再利用等”について、説明を聴くなど、現地で実感しながら、加茂湖周辺の環境について学習した。

▶「フォトグラビア p 8」参照

地 図

(3) 10月12日 トキと人の共生を目指した水辺づくり
座談会への参加

- ・芸能とトキの里で行われた座談会に、総合学習グループ体験コースのメンバーが参加
- ・エコウォークや中等談義で学んだことをもとに意見発表をした。

(4) 2月13日 学習発表会で加茂湖エコウォークの感想発表

- ・エコウォークに参加して感じたこと、考えたことを、代表者2名が参観者に発表した。

▶「発表原稿 p 24」参照



Ⅲ 主な成果

1 スクール・カルチャー「能楽」の成果

(1) 第1回アンケート結果より（9月実施、全校生徒対象）

Q1 佐渡の伝統芸能の「能楽」を学ぶことは、佐渡のよさを感じるきっかけになっていると思いますか？

ア になっている 44%	イ どちらかといえばになっている 46%	ウ	エ
		ウ どちらかといえばになっていない 5%	エ になっていない 4%

Q2 スクール・カルチャーとして「能楽」を学習していることについて、どう思いますか？

ア 自分のためになっている 32%	イ どちらかといえばためになっている 36%	ウ	エ	オ わからない 17%
		ウ どちらかといえばためになっていない 8%	エ ためになっていない 7%	

◆ 「能楽」の学習が自分の「ためになっている」理由

- ・ 地元の伝統文化を身近に感じ体験するよい機会だと思う。
- ・ 将来、もし外国人と交流するときなどに、日本にはこういう文化があることを教えられる。
- ・ 将来、佐渡を紹介するときに自慢できる。
- ・ 記憶力がないので、能をやって記憶力が増した気がした。
- ・ 集中力が上がり、正座を長時間できるようになった。

◆ 「わからない」理由

- ・ 佐渡の文化を学ぶのはよいことだけど、自分のためになっているかはわからない。

「能楽」を学ぶことは、佐渡のよさを感じるきっかけにつながっていると、9割の生徒が感じている。スクール・カルチャーとして、全校で取り組んでいることが功を奏している。講師の神主先生の指導を受けながら、生徒の能楽への関心は確実に高まっている。

Q3 「本間家定例能」に参加しての感想を書いてください。

〈2年生〉

- ・ あまり練習では腹から声を出すことができなくて、足もしびれるから初めはいやだなと思っていました。でも、本番が近づくにつれて「しっかりしなきゃダメだな」と思うようになって、気がついたらまじめに取り組んでいました。本番では、あんな立派な舞台に上がらせてもらって、本当によい経験をしたなあと思いました。
- ・ 1年生のときの「羽衣」より、今回の「竹生島」の方が長かったし少し難しかったように感じた。本番では、観客の期待を裏切らないように演技した。みんなの声もいつもより出ていたし、私自身も大きな声で謡えた。最後にわき起こった拍手はとても大きく、観客の気持ちが伝わってくるようだった。

- ・練習が数回しかなかったので、覚えるのが大変で、正直不安でした。でも緊張したけど、うまく発表できてよかったです。能をあんなふうに発表できるのは、中等生くらいなのかなと、思うとすごくうれしいです。
- ・1年生から能楽を始めて、能の大きな舞台に出られて、改めて能について知ることができた。能舞台の柱や松鏡など歴史を感じることもできた。能楽は佐渡の伝統的な文化なので、私たちが舞台などに出ることで、能楽を知ってくれる人が増えたらいいと思った。
- ・頑張っって練習してきたものを、お客さんに披露できてうれしかった。毎年こういうのに出ることになれば、モチベーションが高くなると思った。自分も少しは佐渡の文化を守ることに貢献していればうれしい。

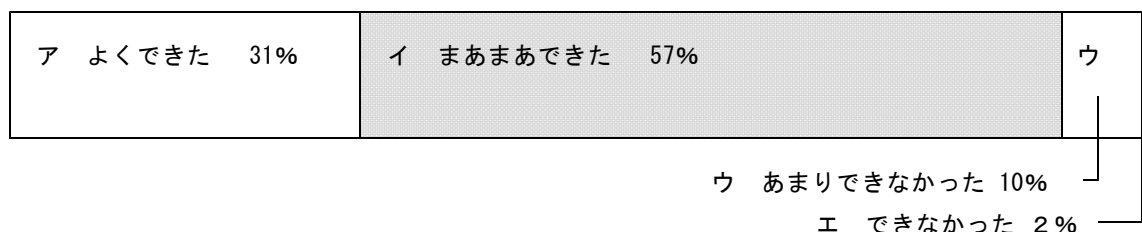
〈1年生〉

- ・能を初めて鑑賞して、迫力があってすごかったです。2年生は大きな声が出ていて、さすが2年生だなと思いました。声が響いてよかったですと思います。
- ・内容はあまり理解できなかったけど、なんとなく佐渡の伝統が伝わってきました。後半は雨のせいでよく見えなかったけど、声はよく響いてすごいいと思った。改めて佐渡の伝統がわかった。
- ・能楽の練習をしていて、まだ本を見てもうまく謡えなかつたりするけど、2年生は本を見なくても大きな声で間違えずに言えるところがすごいと思いました。息もピッタリだったので、私たちも練習して、2年生みたいにうまく謡えるようになりたいです。他の能も見たけど、舞ったりするところが難しそうだと思います。「羽衣」の舞はすごいと思いました。
- ・2年生は全員が能を覚えていて、すごいと思いました。出るところや戻るところは順番に並んですぐ座ったり立ったりして、能はこんなこともきちんとしないといけないから難しいと思いました。私たちも練習しているけど、2年生みたいにできるか少し不安です。だから、練習をたくさんして覚えたいです。

定例能への出演は、個々の生徒に成就感を与えたと同時に、佐渡の文化に携わっている実感を持たせている。初めて本物の能を見た1年生は、「能楽」に感動したり、2年生のようになりたいと感じていた。本物の「能楽」にふれながら、佐渡への愛着を高めていると考える。

(2) 第2回アンケート結果より（2月実施、全校生徒対象）

Q1 今日の学習発表会での「能楽」披露は、自分なりによかったですと思いますか？



◆ 能楽披露を「よかったですと思う」理由

- ・練習のときできなかった囃子の人と合わせることができたから。
- ・しっかり声を出せた。（扇を動かす）タイミングをうまく合わせられたから。
- ・今までで一番いい声が出せたから。
- ・前を向いて大きな声ではっきり謡えた。

◆ 能楽披露を「まあまあできたと思う」理由

- ・初めは声が出ていたけど、最後の方で小さくなっていったような気がしたから。
- ・少しずれたけど、ほとんど重なっていて大きな声を出せたから。

- ・ギリギリで覚えられて、今までで一番よくできました。
- ・練習していくうちにどんどん覚えられて結構できました。

Q 2 今日の「学習発表会」で能楽を保護者や地域、小学生の保護者等に披露したことについてどう思いますか？

ア とてもよい 54%	イ どちらかといえばよい 40%
	ウ あまりよいとは思わない 4%
	エ よいとは思わない 2%

◆ 多くの人の前で能楽を披露することを、「とてもよいと思う」「どちらかといえばよいと思う」理由

- ・「能楽」は佐渡の伝統芸能だし、いろいろな人に見てもらって、「能楽」について知ってもらえたと思うから。
- ・学校で取り組んでいる活動を、地域などの人に見せることはいいことだと思うから。
- ・佐渡中等がオンリーワンスクールに輝いて、能楽をずっとやっていくので披露することはいいことだと思う。能楽をやっていることは、珍しいことだと思うし、いい機会だと思う。
- ・佐渡中等のよさや能楽のすばらしさをアピールできたと思うから。
- ・能楽って結構おもしろいということを教えられたから。
- ・佐渡中等のことを知ってもらうためのいい方法だと思うし、これこそ学校の中でしかやらないより地域の人とかに見せた方がいいと思うから。
- ・聞いてもらい喜んでもらうとうれしい。
- ・能楽を見る機会が少ないし、鏡板なんてあんな近くで見れるものではないと思うから。

◆ 多くの人の前で能楽を披露することを、「あまりよいとは思わない」理由

- ・保護者にはいいと思うけど、小学生には難しいと思う。

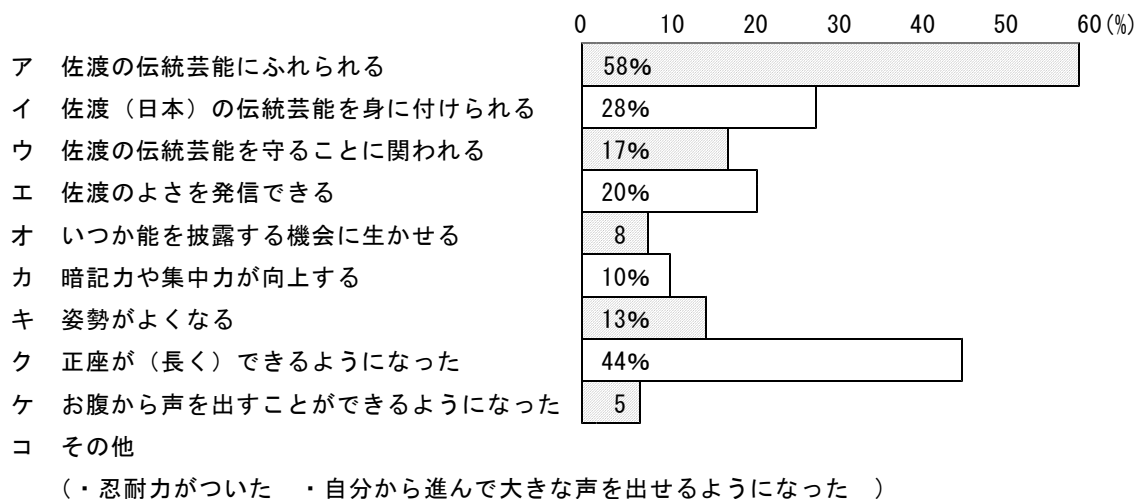
約90%の生徒が、自分なりに能楽を披露できたと答えている。また、ほとんどの生徒が、保護者や地域の人々等、人前で能楽を披露することは、よいことだと肯定的に受け止めている。多くの生徒が佐渡の伝統芸能である「能楽」を学習し、広く伝えることの意義を感じている。佐渡中等教育学校で能楽を学んでいることに誇りをもち、能楽をアピールすることが学校のよさを伝えることにもなると思っている生徒が多いこともわかる。

Q 3 スクール・カルチャーとして「能楽」を学習していることについて、どう思いますか？

ア 自分のためになっている 24%	イ どちらかといえばためになっている 62%
	ウ どちらかといえばためになっていない 13%
	エ ためになっていない 1%

Q 4 「能楽」の学習をしていて、ためになっていることはどんなことですか？（前問でア・イを選んだ人のみ回答）

（複数回答可、%は生徒全体に対する割合）



Q 3 の質問は、9 月と「学習発表会」直後の 2 月と 2 度聞いている。「自分のためになっている」「どちらかといえばためになっている」と思う生徒の割合は、68%→86%に増加した。素晴らしい鏡板が完成したこと。謡だけでなく囃子や仕舞が入り、本格的な能楽を披露できたこと等、活動を継続していく中で、少しずつ能楽の面白さを感じている生徒の声も聞こえてくる。スクール・カルチャーの取組から「能楽」に対する生徒の意識は高まってきている。

Q 4 では、「能楽」をする意義（効果）をどう捉えているか、このような形で聞いてみた。「佐渡の伝統芸能にふれられる」「伝統芸能を身に付けられる」「佐渡の伝統芸能を守ることに関われる」等を実感している。能楽を学ぶことを通して、姿勢がよくなったり、正座をしても足が痛くなくなったり、正座を整然とできるようになってきた。そのことで、けじめや落ち着いた言動に結びつき、節度ある学校生活にもつながってきているように思う。他にも「集中力や記憶力、忍耐力が向上した」と感じている生徒もおり、芸能面以外でも効果が表れてきている。

Q 5 学習発表会での「能楽」披露について、感想を書いてください。

〈1 年生〉

- ・ 正座をしてもあまり「しびれ」がこなくなってきた。前まであまり声が出ていなかったけど、本番には声が出ていた。初めは足袋をはいて足の感覚が変な感じだった。歌詞（謡）を覚えるのは難しかった。
- ・ 練習の初めはまったく声を出していなかったが、声を出すようになってからは結構楽しくなってきたし、よかったと思う。だけど結局ショートカットされてしまったし、うまくいかなかったところがあった。結構悔しかった。羽衣の部分は、訪韓研修の時にやったから、羽衣の部分はうまくいったのでよかったと思う。
- ・ 能の練習の時は、まさかこれを暗記しなきゃいけないとは思いませんでしたけど、こうして学習発表会でいろいろな人に披露することになって、能の謡も覚えることもできたので、よい経験になったと思う。これからも、また能楽の時間があると思うので、その時はしっかり謡を覚えて、またいろいろな人たちに披露したいと思いました。
- ・ 最初は、声が出なかったり、正座はきつくて大変だったり、姿勢を保つのがつらかったりしたけど、ここまでこれたら慣れました。普段も背もたれに寄りかからなくなってきました。当日はすっごく緊張したけど、声もなんとか出てよかったです。2 年生になっても積極的にやりたいです。将来、私が能を伝えていきたいです。
- ・ 初めは難しく、正座も大変だったけど、どんどん練習していくにつれて能楽が楽しくなってきました。練習の時、声が出なかったりして不安でした。当日、最初の部分をカットされてしまったけど、その後をみんなと声を合わせられてよかったです。終わった後、温かい拍手

をいただきうれしかったです。能楽をやってよかったと思いました。

- ・ 今日のために今までずっとみんなで練習してきたので、本番でしっかりできてよかった。自分でも納得できる声の大きさや姿勢ができたので、とてもいい経験になった。2年生もとてもよかったので、いいところはたくさん見習いたい。
- ・ 他の人や2年生に見られて少し緊張したけど、声を出してちゃんと覚えられたからよかった。これからも機会があったらやってみたいと思った。佐渡の伝統芸能を体験していくことはたぶんいいことだと思うから、他の伝統芸能も体験して、佐渡の伝統芸能を守っていきたいと思った。
- ・ 今まで今日のためにみんなで練習してきたので、少し削って謡うことになったけど、うまく本番ができてうれしかった。能楽は正座やとても声を出せて、いいことがあるし、佐渡や日本の伝統だから、これからもがんばって練習したい。今日の発表会での能楽は、本当によかったと思う。

〈2年生〉

- ・ 能楽はいやだ、とか無理だとか思っていたけど、終わるとよい気分だった。不安だったけど、まあまあうまく行ってよかったと思う。
- ・ 足が痛かった。お腹がすぐすく。初めは嫌だったが、今は別に嫌でも好きでもない。ただ、全員の声があった時は気持ちよくなるようになった。
- ・ 練習のときには、神主先生が口で笛や鼓の代わりにしていたから迫力がなかったけど、本番となると笛の人や太鼓の人たちなどの囃子が入りうまく謡えた。
- ・ 練習が去年よりも少なく正直ちょっと不安だったところもありますが、去年よりも豪華な演出(?)で、みんなの気持ちも去年より盛り上がり、前回よりいい能ができたのではないかと思います。
- ・ 初めは能楽なんて面倒くさいものだと思っていました。けれど、たくさん練習するにつれて、みんなまじめになってきていたし、能を教えていただいている神主先生に感謝の気持ちを持たなくてはいけないと思うようになり、面倒くさくなくなってきました。正座は辛いけど、前よりも長くできるようになりました。佐渡の能楽をもっと発信できたらいいなと思います。
- ・ 1年の最初の頃よりさらにグレードアップしたし、前の練習よりも大きな声やリズムなどいろいろな点でよくできた。これからも発表する機会があれば、今日の経験を活かしていければよいと思いました。
- ・ 今回の能楽披露は昨年よりもよりよいものになったと思います。舞や囃子がついて、昨年より能の楽しさ、奥深さを知ることができました。いつかは笛や太鼓もやってみたいと思いました。
- ・ 今までで一番いい発表だったと思います。練習はちょっといやだったけど、本番のためにしっかり取り組みたいし、完璧にできたときの達成感をまた味わいたいので、S C (スクール・カルチャー) をまじめに取り組みたいです。

Q 6 スクール・カルチャー「能楽」を、これからどのように活かしていいたら(活かせたら)よいと思いますか? あなたの考えを書いてください。

- ・ いろいろな人に「能楽」を広めて、佐渡の伝統芸能を守っていきたい。
- ・ 佐渡の伝統芸能だから、全国に能のことを伝えたい。日本はもちろん、海外へも。地球全員に能のことを知ってもらえるようがんばりたいですっ!!
- ・ もっと多くの人に見てもらい、能楽の素晴らしさなどを伝えるといいと思う。
- ・ 佐渡の伝統芸能がいつの時代までも続くように活かせたらよいと思う。
- ・ 能はこんないいところがあるって、日本の人みんなに伝える。佐渡のPRにもなる。

- ・能楽をすることで、佐渡の伝統芸能を守ることもつながるし、将来きっとどこかでこの能楽をしたことが活かせると思う。
- ・もし、外国の人とかかわる機会とかがあれば、そういう時に能を披露して、日本の文化を伝えることができると思う。
- ・佐渡にはどのような文化があるのかと聞かれたとき、佐渡にはこんなにもすごいものがあるというのを教えることができる。
- ・学校以外に能舞台で発表すると文化を広めることができる。
- ・もっと他に発信する機会を増やした方がいいと思う。子どもが一生懸命やっていると、関心を持ちやすいと思う。
- ・伝統芸能を守ることや、能を盛んにして佐渡の活性化になる。
- ・暗記力や集中力を高めるためにも、これからもがんばりたい。

生徒たちは「能楽」に取り組んできて、そのよさを感じて、佐渡の伝統芸能への関心や愛着が増し、この伝統を守ったり、継承していくことの大切さを感じている。また、いろいろな機会でも外国人も含めた多くの人々に伝えたらよいと感じている生徒も多い。声の出し方や集中力アップ、正座ができることも、「能楽」の学習で活かせていると感じている。

初めは「能楽」をやらされていると感じていた生徒もいたと思うが、今回の「学習発表会」を通して、スクール・カルチャー「能楽」のよさや意義を感じてきており、次につなげようとしている。そして、他の学校にないオンリーワンのこの能楽を佐渡中等らしさと感じて、これからは頑張ろうという気持ちになっている。

(3) 学習発表会参観者の感想より（2月実施、保護者・地域等の参観者対象）

Q 発表会（総合・訪韓レポート・能楽等）をご覧になられての感想や意見がありましたら、お書きください。

- ・素晴らしい鏡板の前で能を見学させていただき、大変感動しました。2年目ともなると少し上達したかなと思われそうです。1年生も堂々としていました。能は佐渡の伝統芸能として素晴らしいものだと思います。
- ・能楽について、囃子に舞がつき、随分形になってきています。子供たちのがんばりがよく見えます。（保護者）
- ・能を1つの特色として、佐渡を代表する学校になって（して）ほしいと思います。（保護者）
- ・能楽がんばって続けてほしいです。舞台上で発表すると舞も栄えたのに残念でした。（地域住民）
- ・経験することはなかったであろう能楽をスクール・カルチャーとして、学校で経験できよかったと思います。佐渡の文化にふれることは、その歴史等にも興味を持つことにつながっているのではないのでしょうか。（小学生保護者）
- ・感動しました。子供たちに能を教えてくださいました皆様に感謝です。

地域、保護者の皆様から「よかった」「感動した」という感想を多くいただいた。鏡板の素晴らしさに、近くで見入ったり、写真を撮ったりする人もおられた。

また、囃子方の皆様からは、発表直後、「感動しました。生徒たちはすごい。たった2回しか（囃子と）合わせてなかったのに、ここまで完成させるなんて。こんな素晴らしい会に呼んでいただいて感謝します。」とお褒めの言葉をいただいた。生徒たちの自信と励ましになった。指導してくださった神主先生からも、「囃子に合わせて謡うというのは、経験がなければ大変難しい。申し合せ（リハーサル）で初めて謡い、3回目が本番。それをほとんどしっかり

やっけてのけた。これはほとんど驚異的でした。」と、絶賛していただいた。多くの皆様に支えられ、生徒たちも大きく成長した。

2 加茂湖水系再生プログラム事業の成果

(1) 「佐渡中等談義」後のレポートより（全校生徒対象）

Q 分かったことや感想を書いてください。

- ・昔の加茂湖や今の加茂湖、加茂湖とつながっている4つの川のことなどの話を聞きました。その話を聞き、私は今の加茂湖の現状にとっても興味を持ちました。
- ・談義に参加して、少し加茂湖のイメージが変わった。加茂湖の色は、カキを育てるのに必要なプランクトンがたくさんいるから濁っているということが分った。でも、加茂湖にゴミが捨ててあることも少し関係があると思った。
- ・この談義で、ときどきトキがやって来ること、加茂湖の辺りにはゴミがたくさん捨ててあることを聞きました。加茂研の人や大学生たちは加茂湖をきれいにする方法やその周辺に棲む野生の生き物などを研究していました。大学生が言うには、佐渡には他の所にはいないような生き物が棲んでいると聞きました。それは佐渡には、他の所にはないものがあるのではと思いました。
- ・加茂湖をきれいにしようとしている人は、大学の人や加茂湖水系研究所の人たち、漁師さんなどでいっぱいいることが分かりました。今、加茂湖は葦などの生き物のすみかになる植物が少なくなっていることが分かり、僕はどうしたら葦などの植物が増えるのか調べてみたくなりました。
- ・東京工業大学の人たちが来てくれて、いろいろな話をしてくれました。加茂湖の今の状況や加茂湖に棲んでいる生き物、川のことなど内容は様々でした。話を聞いていて、僕は今まで加茂湖は汚いんだなと思っていただけ、白鳥がいたり、鮎がいたりして、イメージも少しずつ良くなっていきました。
- ・大学生などと未来の加茂湖について話したり、どうすれば今の加茂湖が良くなるかなどを話し合っていたら、少しずつ加茂湖に対する意識が高くなって興味を持ちました。
- ・「トキ野生復帰をきっかけに、豊かな加茂湖を取り戻したい」という地元の人々の強い願いから、この運動が始まったことが分かりました。加茂湖はきれいに見えるけど、間近で見ると貝殻が落ちていたり、ゴミがあったりすると、豊かな加茂湖を取り戻せないのだから、エコウォークを行って、ゴミ拾いをしたいと思いました。
- ・談義に参加して、加茂湖の問題を改めて整理したとき、私は問題点が思ったよりも多くて驚きました。カキの殻や水質についてなど、たくさん問題点があり考えさせられる談義となりました。大学の人々が佐渡に来て佐渡を良くしようとしてくれていることを知って、たくさんの人に支えられている場所に住んでいるんだなと思いました。

生徒たちは大学教授から加茂湖自然再生の取組を聞いたり、「トキと社会」研究チームの人と談義をしたりして、身近であるがあまり知らなかった加茂湖について関心をもった。談義で個々の意見をまとめる方法や発表の仕方等も体験しながら学ぶことができた。

また、加茂湖の現状を知り、自然再生の取組に多くの人たちが関わっていることを知り、「加茂湖エコウォーク」への動機付けになった。

(2) 「加茂湖エコウォーク」後の体験レポートより（全校生徒対象）

Q 1 加茂湖エコウォークを体験して分かったこと、感じたことを書いてください。

- ・加茂湖のイメージはカキだと思っていたけど、いろんな生き物がいてびっくりしました。

中でも新種のカエルは見たことがない色のカエルだったので興味深かったです。他にも自然再生の川づくりの話聴いて、もっといろんな生き物が増えるといいなと思いました。

- ・小さい魚から大きい魚までが棲めるように段差を低くしたり、石を置いたりして、いろいろな工夫があることが分かった。川に棲んでいる生き物が増えたということも分かった。いろいろな人たちの加茂湖（天王川）の生き物や湖、川づくりに対する気持ちが伝わってきて、それだけ加茂湖を大切に思っているんだということが実感できた。

Q 2 佐渡の環境のために、何をしようと思いますか？

- ・きれいな環境を作るためには、やっぱりゴミ拾いなどをして周りをきれいにするのが大切だと思います。今回エコウォークをして、カゴやホースなど大きなものが堂々と捨ててあったり、小さいものでも吸い殻や空き缶等たくさん捨てられていたりしました。なので、「ゴミをちゃんと自分で捨てるように」と周りの人に呼びかけたり、ゴミを見つけたら積極的に拾うようにしたいです。
- ・植物や動物などが豊かに暮らせるようなゴミの少ない環境にしたい。そのためには、まずゴミを外に捨てない。それからゴミが落ちていたら、なるべく拾うようにしたい。
- ・佐渡にしかないような「カエル」や「トキ」が、これからもずっと佐渡にいられるようにすみよい環境にしたい。佐渡の自然を大切にしたいから暮らしていきたい。

ただ、ゴミを拾いながら歩くのではなく、大学教授や自然保護官、地域振興局の方等、それぞれの専門家の皆様から直接現地で自然再生の取組や加茂湖の状況等の説明を聞いたので、参加した保護者からもとても勉強になった、と感想をいただいた。生徒たちも佐渡の自然の豊かさを感じ、この自然を守っていきたくて強く感じられる活動になった。

(3) 自然再生プログラムに参加して (アンケート、全校生徒対象)

科学的な思考力の向上の観点から、次のようなアンケートを行った。

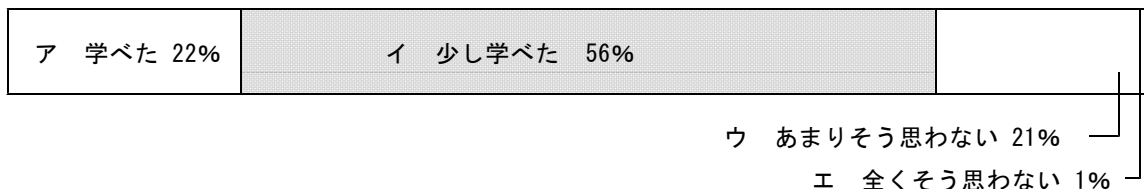
Q 1 他の生徒の意見をお互いに尊重し合いながら、積極的に話し合いに参加する力を修得することを、学べたと思いますか？



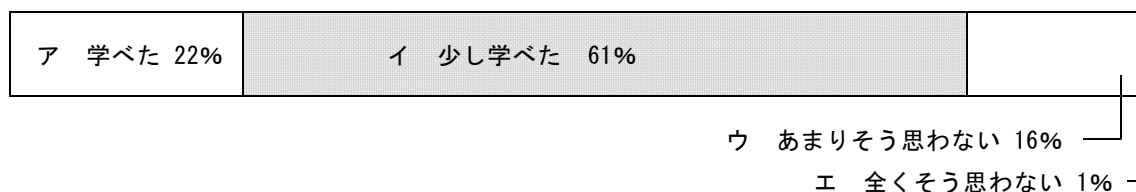
Q 2 与えられた課題を解くために必要な様々な情報を集め、活用する方法や力を、学べたと思いますか？



Q 3 与えられた課題を解くために、自分で深く考える力を、学べたと思いますか？



Q 4 観察・実験の結果や与えられたデータについて考察し、その内容について説明したり、与えられた課題を解くために必要な様々な情報を集め、活用する方法や力を、学べたと思いませんか？



談義やエコウォークを通して、大学や研究機関の話聞き、専門的な学びや研究方法にふれられたか尋ねた。「いろいろな考えを話し合う力」「情報収集し活用する力」「深く考える力」「データを考察し、まとめて伝える力」を学べたと8～9割の生徒が思っている。大学等の専門機関との関わりを今後も続けていき、より高めていきたい。

(4) 自然再生プログラムに参加しての感想 (学習発表会での代表発表者の原稿)

加茂湖を知ることから

私が今まで加茂湖に抱いていたイメージは、カキが取れて魚も釣れる、という程度でした。私は加茂湖のある旧両津市の小学校出身ですが、学校行事などでは加茂湖に行ったことがなかったので、加茂湖のことについてほとんど知りませんでした。

ですが、7月8日に行われた「佐渡中等談義」では、加茂湖にはいろいろな人が関わっているということを知りました。加茂湖に流れ込んでいる川からきれいにしているようにしている努力や、上流のビオトープの整備など、加茂湖の環境のためにしていることも分りました。

8月1日のエコウィークでは、天王川の上流まで歩きました。上流まで行く途中にほとんどゴミがなかったことにとっても驚きました。道もけっこう整備されていたし、地域の人や研究生などの努力が見えるよう

1年 佐橋 氣理

でした。上流にはトキの二次放鳥に向けたゲージが用意してあり、その周りにはいくつかのビオトープができていました。地域の人々も協力してトキの放鳥や環境美化のために働いていました。今までより加茂湖のことが分かったので、私も加茂湖整備のために活動していきたいと思いました。

「佐渡中等談義」や「加茂湖エコウォーク」を体験して、一旦汚れてしまった加茂湖がまた元の姿に戻りつつあることを知りました。それは、たくさんの人々の努力の結果だということも分かりました。私は今まで加茂湖になんに関心もなかったけど、これらを経験して関心がわきました。加茂湖の環境を良くするために、私ができることを1からこつこつとしていきたいと思えます。そのためにまず加茂湖のことをもっともっと知る努力をしていきたいです。

加茂湖再生プログラムに参加して

僕は加茂湖について、あまり知りませんでした。加茂湖がどんなに大きいか、どんな生き物がいるのかも知りませんでした。しかし、1つだけ知っていることがあります。それは、カキを養殖していることです。加茂湖のカキはおいしいと聞いていま

2年 塚田 悠介

す。でも、僕はカキが食べられません。鍋に入っているときは、食べないようにしてきました。

僕は加茂湖についてあまり良いイメージを持っていませんでした。ちょっと汚い湖と思っていました。

そんな僕の加茂湖に対する考えが変わったのが、「佐渡中等談義」です。この佐渡中等談義の話の中で、加茂湖はそんなに汚くないということを知りました。そして、今、加茂湖を昔のきれいな湖に再生しようとする運動も行われていることも初めて知りました。僕はこのことについて、もっと詳しく知りたいと思いました。

「加茂湖エコウォーク」のとき、僕は半周約13kmを実際に歩き、ごみ拾いやいろいろな場所で加茂湖について説明を受けました。歩いてみて思ったことは、加茂湖はとても大きくて、思っていたよりきれいな湖だったということです。説明の中の話の1つに、昔生えていた草をまたよみがえらせようとしていることなどがわかりました。ノ

最近、加茂湖では赤潮が大量発生し、カキが死滅したり生育不良になったりしたニュースを聞きました。カキはそんなに好きではありませんが、いっぱい並んだカキのいかだやカキを育てている人たちのことを考えると悲しくなりました。原因をきちんと調べ、今年はそんなことのない、おいしいカキが食べられる年であってほしいと思います。

僕は、これから加茂湖をきれいにするために自分のできること、たとえば、ごみのポイ捨てをしないなど実践していきたいです。

いつかまた、加茂湖について調べる機会があれば、もっとカキについてきちんと調べたいです。

加茂湖水系再生プログラム事業に参加して、加茂湖自然再生をキーワードに佐渡の自然、生物、環境について、興味をもたせることができた。佐渡の環境について、現場を見ながら考える機会となった。併せて、大学関係者や研究所、研究チームの方々との活動を通して、専門的な内容や研究の仕方も学ぶことができた。

IV 今後の課題

1 スクール・カルチャー「能楽」について

(1) 「能楽」の取組を、今後どのように進めていくか。

現在、総合的な学習の時間を使って、スクール・カルチャーである「能楽」を行っている。新学習指導要領への移行により、総合的な学習の時間が今後減少してくるので、スクール・カルチャーと他の総合の内容を見直したり、精選したりする必要がある。全校体制で練習するもの、学年で分れて行うもの、上位学年でやれること等、運用面や内容を検討したい。いずれ全校体制ではできなくなると考えるので、「能楽」を続けていけるように、クラブや同好会的な活動も考えていかなければならない。

また、能楽の発表をするにしても、囃子方や楽器等の費用をどう確保するかが課題である。

(2) 「能楽」をどのように広げていくか。

発表会の機会を設けるごとに、生徒は間違いなく上達し、意識も高まっている。今後、佐渡の能楽関係者や佐渡に能楽の練習に来ている大学生等と連絡を取りながら、発表の場や交流の場をどのように設け、どんな内容にするか、次のステップを探る必要がある。

2 加茂湖水系再生プログラムについて

(1) 加茂湖自然再生の取組をどのように継続していくか。

全校で取り組めるものとそうでないものとを検討し、取組内容はより深めていきたい。専門家や大学との関係は、このまま続けていくことで、より太いパイプにしていきたい。

また、科学部や有志でこの研究により踏み込んで参加できる集団ができるとよい。その組織についても今後検討である。

他校への伝播

I 取組状況

1 伝播の状況

(1) 学校ホームページでの取組状況の紹介

- ・オンリーワンスクールの取組として、①「能楽」②「加茂湖再生」のページを開設し、取組を紹介している。

▶「新潟県立佐渡中等教育学校 ホームページ

URL <http://www.sado-ss.nein.ed.jp>」を参照

(2) マスコミ取材と広報

- ・本間家定例能への参加の様子は、佐渡テレビジョンで放映された。
- ・加茂湖エコウォークの取組は、佐渡テレビジョンと新潟日報佐渡版（A）に大きく取り上げられた。

▶「新聞記事 p27」参照

- ・加茂湖エコウォーク参加の際、桑子教授が講師となる放送大学の番組「生命と環境の倫理（'10）」集録で、参加者インタビューを参加生徒、保護者が受けた。番組は来年度放送予定である。
- ・鏡板の制作過程や完成について、NSTや新潟日報（B）に取材された。

▶「新聞記事 p28」参照

- ・2月の学習発表会に向けての練習の様子をNHK、佐渡テレビジョンに取材され、テレビで放映された。
- ・学習発表会の当日の様子は、NSTで放映され、新潟日報でも下越・佐渡版（C）に掲載された。

▶「新聞記事 p29」参照

(3) 新潟県「教育月報」による教育関係者への広報

- ・12月発行の「臨時増刊号」に取組状況が紹介された。

(4) 学習発表会での発表

- ・学習発表会では、保護者はもちろん、地域の皆様、小学4・5年生と入学予定の6年生とその保護者、島内小学校・中学校・高等学校の教職員、能楽関係者に広く案内を出し、能楽発表時は約150名が参観した。
- ・鏡板完成記念「能楽」披露
- ・加茂湖エコウォーク感想発表

(5) 報告書の作成、他校への配付

- ・佐渡島内の小学校・中学校・高等学校、オンリーワンスクール研究開発校、県立中等教育学校等に配付。

Ⅱ 新聞記事

- 1 新潟日報（佐渡版） 平成21年(2009年)8月6日 朝刊（A）

2 新潟日報（佐渡版） 平成21年(2009年)12月25日 朝刊（B）

3 新潟日報（下越・佐渡版） 平成22年(2010年)2月17日 朝刊（C）

編集後記

県の施策として、この「オンリーワンスクール推進事業」が今年度から始まり、本校が研究開発校に指定されたことは、とても幸運でした。開校2年目の本校の取組が支援いただけたことに、関係各位に感謝いたします。

この事業の実践と成果を、「報告書」としてまとめました。生徒たちの様子(写真)や感想を多く載せることで、本校の取組が多くの皆様に伝われば幸いです。

スクール・カルチャー(S C)の設定から携わってきて、生徒が真剣に能楽の練習に励み、自分たちの活動をオンリーワンとして意識し、真剣に演じている姿は、感無量でした。しかも、世界で一番新しく、素晴らしい鏡板の前で。決して十分な練習時間があったわけではありませんが、立派に演じる生徒たちの力に感激し、共に新しい学校を創っていていることに幸せとやりがいを感じています。

本校の「能楽」がここまでこれたのは、ひとえに指導者の神主式二先生のお陰であります。神主先生の指導に生徒たちは、「能楽」の面白さや自分たちが能楽をやる意義を見つけてきています。この中等教育学校前期課程で覚えたことは、大人になってもおそらく忘れないでしょう。将来、ニューヨーク支店の支店長になったA君は、能の謡を披露して人気者になっています。佐渡の能を守ると言っていたBさんは、本当に能楽を子どもたちに教えています…。こんなことが、夢ではないかもしれません。

鏡板は迫力といい鮮やかさといい、とても立派なものができ上がりました。ここまでご尽力いただいた渡辺富栄先生には、お礼の申し上げようもありません。末永く佐渡中等教育学校の宝(シンボル)として伝えていきたいと思っています。

加茂湖自然再生の取組も、桑子教授からお話をいただいたときから、「これは面白い」と思っていました。とんとん拍子に活動に結びつき、多くの関係者を巻き込んで実践することができました。身近にある加茂湖について、自然再生の研究に触れられたことは、生徒にとっても職員にとっても、よい学習の場となりました。

この場をお借りして、宝生流師範の神主先生、日本画家の渡辺先生、東京工業大学大学院の桑子教授、桑子研究室の豊田さん、はじめ「オンリーワンスクール推進事業」に関わってくださった多く皆様に、心からお礼申し上げます。

(教 頭 加藤 雄一郎)

平成22年3月12日発行

発行 新潟県立佐渡中等教育学校 校長 中村健郎
NIIGATA PREFECTURAL SADO SECONDARY SCHOOL

〒952-0005 新潟県佐渡市梅津1750番地

編集 オンリーワンスクール推進事業担当

加藤雄一郎 石平伸一(S C) 河野理彦(環境教育)

本宮智恵子 松村博生 石川絵梨子 長部 賢

田中実子 埴 博樹 齋藤洋平 湯浅(安田)笑美子